

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------------|
| 事業所番号 | 2374400253 |
| 法人名 | 医療法人光慈会 |
| 事業所名 | グループホーム ながしのの里 |
| 訪問調査日 | 平成20年5月23日 |
| 評価確定日 | 平成20年7月25日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月30日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|-------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2374400253 | | |
| 法人名 | 医療法人光慈会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ながしのの里 | | |
| 所在地 (電話番号) | 知立市長篠町新田東11-10 (電話) 0566-84-5010 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長久区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F | | |
| 訪問調査日 | 平成20年5月23日 | 評価確定日 | 平成20年7月25日 |

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成13年7月1日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 | 16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6,7 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 造り | | |
| | 1 階建ての | 階 ~ | 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|---------------------|----------------|---------------|
| 家賃(平均月額) | 50,000 円 | その他の経費(月額) | 8,000 円(食材費含) |
| 敷金 | 有() 円 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有() 150,000 円 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 16 名 | 男性 | 1 名 | 女性 | 15 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 85.5 歳 | 最低 | 71 歳 | 最高 | 96 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 秋田病院・知立京極歯科 |
|---------|-------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

知立の弘法さん近くの幹線道路から一方通行の路地に入り込んだ住宅街に位置している。リビングの正面には「やかん、火鉢、桶、針山、尋常小学校の教科書」等を地域の方々が持ち寄り利用者が昔を思いだす雰囲気作りがされている。又家族会の出席率は毎回9割を超えホームを理解、ホームを良くして行こう前向きの姿勢をうけとれる。このように地域の方々、家族が真のホームの応援隊に感じられる。運営推進会議はこの5月に発足師他ばかりであるが、初回から地域の認知症の勉強会を開きたい、キャラバンメイトがいるのでホームと協力して効果を挙げて行きたい、回覧板を廻すなど連携を深め口コミで広めて行こう。と今までホーム、家族が地域へ貢献している証であると思えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では運営理念、ケアサービスの分野でいくつかの改善課題が指摘されていた。管理者・職員は外部評価を活かすために課題を共有し、具体的に解決できることから意欲的に取り組んでおり、順次改善されつつある。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニット毎に5回に亘りミーティングを行い、自己評価を行った後で、この項目は抜群、この項目は要改善と再確認し、改善に取り組んでいる。</p> |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>本年5月に初めて運営推進会議を開き各メンバーにホームの内容を理解してもらうため、ホームの取組みを説明した。会議には区長・区民生員・地域包括支援センター員・ホーム側5名(管理者・主任・副主任・介護支援専門員・介護看護師長)の11名が参加した。今までの地域貢献が認められているためか、初回にも関わらず「地域とホームの連携は先ず、回覧板を廻すことから、」「口コミで広がって行けば良いな」等前向きな発言が出されている。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームは家族の意見・苦情を大切に受け止めようとの思いを強く持っており、事ある毎に家族の意見を聞くことに気を配っている。特に家族会の際に、家族から率直な意見が出るように全職員退席の時間を設け家族の意見を家族ノートに記録して、職員にノートを回覧している。</p> |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初から、町内会に入ってホームの行事(夏祭り)に地域の方を招待し、地域の多くの行事に参加している。近所へ散歩、公民館への資源ゴミ出し等で顔見知りになり声をかけ合っている。また、近所の方が畑の作物を日常的に届けてくれ、地域の方々がホームの応援部隊になっている。ホーム側は更に応援部隊を広める為ホーム便りの地域への配布を検討中である。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-----|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 利用者の尊厳・利用者の自立・地域の中での暮らしの重視が謳われた運営理念を掲示している。 | | 運営理念に多くを書きすぎた懸念もあるので前半のスローガンの部分を理念とし、後半の詳細面目の部分を運営方針とすることにより、理解し易くなるよう検討することを期待したい。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の共有に向け、職員採用時勉強会にて意識の統一を図っている。また、常時職員の目に留まるよう事務所やフロアに掲示している。 | | 日々のサービス提供場面(言葉掛け、態度、記録、関わりの振り返り等)において理念を掘り下げて具体的なケアに反映するように職員全体で話し合い取り組む事を期待したい。即ち理念 方針 ホームの今年度方針 個人目標と全職員が理念を支援の中に活かしていく取組みを期待したい。 |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 公民館でのイベント・資源ごみ回収等、地域の行事に参加し地域住民との交流に努めている。近隣の幼稚園の年間行事に組み入れてもらい、交流を行っている。 | | ホームの情報紙を地域に配布する取組みを行っている。さらに支援の輪が広がっていくことに期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価・外部評価を通して日常支援を振り返り、職員全員で課題の抽出、問題解決にあたり、積極的に改善の取組みにつなげようとする意識が顕著である。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 本年五月にはじめて運営推進会議を開き、各メンバーにホームの内容を理解してもらうために、ホームの取組みを説明している。会議には区長、区民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族2名、法人事務局長、ホーム側5名(管理者、主任、副主任、介護支援専門員、介護看護師長)の11名が参加している。初回から「地域との連携は回覧板を廻して連携を図っていくべき」と前向き意見が出、また、区長さんからは「口コミで広がって行けば良いな」との有意義な発言も出された。 | | 熱心なホームからの働きかけは、地域へのホーム・認知症高齢者理解に繋がり、強いてはホームで暮らす利用者の生活環境確保につながるものと思われる。定期的な運営推進会議の実施とともに収集した意見への取組みに期待したい。会議をマンネリ化させない為にも有力者として、提携している医師、学区の小・中学校の先生、交流のあるボランティア団体のリーダー、警察・消防関係者等を構成メンバー(内容によりその都度要請でも可)に加え更に活性化する事を期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|---|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の高齢福祉課が主催する連絡調整会議に出席し、研修の講師等も引き受けている。 | | 法律の改正や制度の変更がしばしばある現状を考えると、情報の漏れや遅れを防ぐ意味からも、情報収集・情報交換、困りごと相談等を通じ、行政担当との関係作りへの取り組みに期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の訪問時に利用者の状況報告を行い、ホーム全体の報告は家族会にて行われている。 | | 家族会、ホーム便りにより、行事的なことは充分伝えられているが、家族にとっては個々の利用者の日常的なことを知りたいと思われる。ホーム便りの片隅にコメント欄を設け、個々の利用者の日常の様子を知らせる事を期待したい |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に苦情箱を設置するとともに、家族会では職員が退席する時間を設け、意見・要望が出しやすい工夫がされている。家族と職員との連絡ノートを使い情報収集に努め、日常支援への反映に取り組んでいる。 | | 家族アンケートの中に1項目ではあるが、やや満足、どちらとも言えないと、将来に不満となる兆候も表れている。このような兆候を意見として、もっと吸い上げる努力・工夫を望みたい。苦情がないのが良いとばかり言えないので、家族会・運営推進会議を上手く利用しながら、ホームの思いや取組みを伝えていく工夫を期待したい。 |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者と職員との馴染みの関係を保つことの重要性が理解されており、異動前から職員は異動先の勤務に度々入り混乱を最小限にし、スムーズに移行できるよう配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月一回、パートの職員や運転手も参加する定例研修会が実施している。外部研修に参加後は、伝達講習を行い全職員の力量向上に努めている。 | | 年間計画の中で研修を位置づけし、職員の経験や習熟度に応じて段階的に「力量」を向上させ、育成して行く方策の具体化を期待したい。 |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 愛知県グループホーム連絡協議会の委員を務めネットワーク作りをするとともに、近隣のグループホームとの相互訪問・交換実地研修等、情報交換も含め向上に向け、取り組みを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|-----|--|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 新規利用者がスムーズにホームに馴染める様に様々な取り組みが行われている。入居前の同敷地内にあるデーサービス利用時にホームの他利用者・職員と一緒に過ごす時間を設けており、体験入所も実施されている。また、入居後は利用者の状態に応じ、家族に頻りに訪問してもらう等の協力をお願いし安心感を持ってもらうようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 日常生活の中で支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面作りや声かけをしている。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、生活の場面で教えを受けている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員は、日常生活のなかで声をかけ、利用者の思い・意向の把握に努めている。入居時のアセスメントでは、現在に至るまでの利用者のバックグラウンドを詳しく家族から聞き取り、利用者がどのように暮らすことが最良なのかを検討している。 | | 入居時の聞き取りをはじめとして、入浴や食事等の日常の関わりの中で想いや要望を引き出し、利用者から新しく知り得た情報、生活歴等は職員間の共通の話題に止まらず、個人別ファイルを作成し、写真を始め、個人の情報を集約する事を期待したい。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画作成は職員担当制で行っており介護計画への職員意見反映を実践している。ただ担当制の為に作成された目標・の具体性にばらつきがみられる。 | | 計画に職員担当制を取り入れるのであれば、全体を確認する介護計画作成者の関わりを期待したい。また利用者本位の介護計画としては利用者・家族の意向を計画に反映させる取り組みに期待したい。 |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 四ヶ月ごとの目標見直しを行い、目標に対する評価が実践されており、その結果を踏まえた新たな計画が作成されていた。職員が記録する利用者の状態変化や家族面会時での要望に応じた見直しもやっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 看護師(非常勤職員)による定期的な健康管理、適切な体調管理を行い、早期に医療機関と連携できる体制を築いている。家族の要望に応じ居室に泊まることもできる。又、家族アンケートの「外食・遠足・日帰りツアー・泊旅行・夏祭り等々」に対する感謝の言葉からも利用者の期待に対しての配慮を知る事ができた。 | | ホームの利用者に対する多機能のサービスは充分行われている。今後、地域の高齢者が状況に応じて必要なサービスを馴染みの環境で受けられるように、グループホームの多機能性を活かした柔軟な支援について検討することを期待したい。 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的にかかりつけ医の受診は、家族が行う。家族の状況に応じ受診支援をしている。家族との連絡ノートを介し受診前の利用者の状態・受診後の連絡事項等の情報の共有に努めている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人・家族の希望の聴き取りを行い、適切な支援を目指している。今後、かかりつけ医・提携医との協議を含め、職員間での方針の確立・共有を課題としている。 | | 終末期のホームの役割は医療支援のみではなく、利用者の安心の支援であると思われる。利用者本人が終末期をホームで望む場合、かかりつけ医との方向性の一致は利用者の心身の負担の軽減につながると考えられるので、今後も利用者の意向本位の積極的な取り組みに期待したい。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員は、人生の先輩から教えていただくという姿勢で日常支援を行い、利用者個々の尊厳を大切にしている。訪問当日も、丁寧な言葉遣い・気配りの行き届いた支援を行っていた。又、掲示物、ホーム便り等に使用しても了解の確認を行っている。便りも配布先は家族に限定している。 | | 折角立派なホーム便りを作成し配布先が家族だけでは勿体無いのでむしろ、関連部署に配布できるように家族の許可を取り、便りを有効利用する検討を期待したい。 |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ホームでの生活の大まかな日程は決まっているものの、起床や入浴をはじめ、その他の日課等はその時の雰囲気に合わせて、利用者のペースで進められている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|---|-----|---|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者は、各自の能力に応じて食事作りや片付けに参加している。訪問当日もエプロンをして配膳にあたっている利用者の姿があった。食事のメニューは利用者と職員の会話の中から、その日のメニューを変えることもある。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 利用者の希望を優先しての入浴支援を行っている。ほぼ、全員の利用者が毎日入浴しており、日に何度も入浴希望される利用者にも対応している。問題は順番であるが、カードを作ってゲーム感覚で順番を決めている。最近では譲り合いの精神も出てきている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の生活歴や趣味を、ホームの日常生活の中で活かす為の支援が行われている。調理や食事の後片付け等、自分の役割として自主的に参加している利用者の姿や居室でピアノを弾いて過ごしている利用者の姿が訪問時に見ることが出来た。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 地域内に神社等あり、天候を考慮しての散歩は頻繁に行われている。また、外食や買い物にも出かけ利用者の楽しみに繋げている。年間の行事として春の宿泊旅行・秋の遠足に家族とともに出掛けている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中、玄関の鍵は施錠しておらず徘徊癖のある利用者には同行の支援を行っている。夜間就寝時から朝起床までは内側から施錠されている。居室も施錠できるようになっており、内側から開錠できる。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年二回の避難訓練・設備点検が実施されている。そのうちの一回は消防署が参加しており夜間を想定した避難訓練も実施されている。また、年一回、消防署の協力を得て救急法の実技研修を行えるよう取り組みの最中である。 | | 夜間の災害発生時には、近隣住民の協力が不可欠な要素と考えられる。協力の約束は頂いているものの、その連絡網が真に作動する確認の為にも休日を利用する等して地域の方々も参加しての「夜間想定避難訓練」の実地を望みたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者の嗜好を考慮し、栄養バランスを考えた食事提供に努めている。食事・水分の摂取量を毎日記録しており、夜間は居室にお茶を入れたペットボトルを持って行ってもらうなど、健康維持に適切な栄養価の補給と水分摂取が重要であることを理解している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 室内環境は、採光・照明・空調とも適切に管理されている。生活の場面で畳とフローリングを使い分け、回想法を思わせる家具や小物を置いている等、利用者にとって落ち着いた空間を提供できるよう工夫をしている。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には馴染みの物が多く持ち込まれ、個々の個性に溢れていた。写真やお孫さんからの手紙・家族からの贈り物・ピアノ等趣味の物も含め、それらの品は利用者の居心地のよさにつながっている。 | | |